

芝草・土壌通信

夏の暑さでストレスを受けて弱ったベント芝は秋になると徐々に回復してゆきます。秋のベントグリーン管理の目標は夏に弱った芝草の回復を促進することと、来るべき冬に向けて貯蔵養分を蓄えさせることです。

また、秋はラージパッチが発生しやすい時期ですので対策が必要です。

本紙では 9 月～11 月の芝草の管理について芝草の生理生態と土壌の側面から考察してみました。ゴルフ場のコース管理に携わる皆様のご参考にいただければ幸いです。

鹿沼化成工業株式会社

URL: www.kanumakk.co.jp

電話でのお問い合わせは

028-625-1250

までよろしく申し上げます

【秋のグリーン更新作業と肥培管理】

ベントグリーンを良好な状態に保つためには定期的な更新作業が欠かせません。可能であれば 9 月・10 月・11 月と毎月エアレーションを行いたいところですが、ワングリーンであったり人手不足であったりなどの理由からそこまで頻繁にエアレーションはできないというゴルフ場も多いと思います。しかしいずれにしましても、ベントグリーンの管理では土壌中の微生物を活性化させたり土壌の物性を改善したりできるエアレーションは非常に重要な作業です。

エアレーションの数週間前には有機質肥料の「**ブサン有機1号**」を、エアレーション直後には土壌改良資材の「**鹿沼グリーン SB**」あるいは「**SB ドレッサー**」を散布しますとエアレーション後の芝の回復が早まります。

また秋の芝草は冬に備えて貯蔵養分を蓄える必要があります。光合成を促進して芝草の活性を高める「**サンハニー**」はこの時期とても有効な資材です。エネルギーの浪費を抑えて貯蔵養分を増やすために、10 月までは**硝酸化成抑制剤**の使用を続けることをお勧めします。9 月はまだ気温が高いため「**ベル**」を、10 月は「**ニュー・ST**」を使用するのが最適です。「**ベル**」や「**ニュー・ST**」に含まれる微量要素もこの時期にはとても大切です。

【ラージパッチ対策】

ラージパッチは土壌表層の pH を酸性(5 前後)にすると病害を軽減できるといわれています。そのため予防対策として硫酸の施肥がよいという意見もありますが、土壌を一度酸性にしてしまったら元に戻すことは容易ではありません。しかも窒素の施用が多いとラージパッチの発生を助長するともいわれています。そのため結局殺菌剤を使うしかないとお考えの方も多いのではないのでしょうか。

しかし弊社では約 30 年前からラージパッチ対策には**放線菌**が有効と訴え続けてまいりました。近年になってこの考えは正しかったことが認められてきています。弊社を代表する商品「**鹿沼有機**」は**放線菌**を豊富に含んだ**完熟堆肥**です。砂と混ぜて FW に目土をすればラージパッチの予防効果があり、病害が発生した箇所にも多めに撒くと治療効果があります。ティーグラウンドやグリーン周りなどは目を細かくした「**鹿沼グリーン SB**」がお勧めです。肥料成分の強い堆肥は放線菌が優勢になっておらず適していませんし、炭素率の高い堆肥は危険です。5 年ほど熟成させて作った、土壌改良効果が高く安全な鹿沼化成工業の**完熟堆肥**をお選び下さい。

「**草寿**」もラージパッチ対策に有効な資材です。「**草寿**」の主成分は**キトサン**と**木酢液**です。**放線菌**は**キトサン**を好んで食べて増殖しますが、その際に**放線菌**が分泌するキチナーゼという酵素は病原菌（細菌・糸状菌）の活性を抑制します。さらに**キトサン**から誘導されるキチンオリゴ糖は芝草の免疫に作用し、病原菌に対する抵抗性を高めます。また**木酢液**は**放線菌**の増殖を促す効果と芝草の成長促進の効果があります。「**草寿**」はベント芝にも有効な資材ですので、FW と同様グリーンにも春と秋に使用してください。